

第19回

護心館田淵道場大会

日時/平成18年11月26日 AM 9:00~PM17:00

会場/東陽小学校体育館

護心館三割 正対・舟之・関基

修行三要 継続・真剣・工夫
試合三要 機・打突・表示

大会主眼

スポーツチャンバラも世に知られて来たが、近頃の試合内容は田邊会長説くところの護身の道から外れ、骨抜きになってしまった感じがする。今回も原点に立ち返り、護身道を再確認する勉強大会としたい。

護心館長 田淵 光宣

東京都スポーツチャンバラ協会
 国際護身道連盟
 護心館田淵道場

短刀・小太刀・剣・槍・二刀・棒・杖・刀法・様斬・戸山流居合

東京都連会長
 護身道免許皆傳

師範・29(1)

田淵 光宣

師範代 360 (護心館本部)	佐野	森 一	師範 259(2) (埼玉・武南支部)	鴻田	征彦
護心館本部助教	野村	秀明	師範 270(3) (足立・江東支部)	植草	庄治
師範代 306 (千葉・柏)	酒井	実	師範代 307 (杉並支部)	山口	英介
師範代 429 (世田谷支部)	吉田	忠左衛門	インストラクター 450 (千葉・市川支部)	吉見	憲一
師範代 374 (埼玉・誠心塾)	茂木	明夫	インストラクター 511 (護心館・国際部)	高橋	勉
インストラクター 513 (岩手・盛岡支部)	高橋	雅明	インストラクター 559 (千葉・成東)	宮山	秀一
師範代 677 (麻布直支部)	廣海	光一	師範代 778 (護心館本部)	倉橋	崇
インストラクター 1047 (護心館本部)	生田	征志	インストラクター 1056 (麻布直支部)	沼	俊郎
インストラクター 1092 (護心館本部)	絹山	圭介	インストラクター 1452 (護心館本部)	田淵	美也子
インストラクター 1640 (世田谷支部)	内田	正彦	インストラクター 1641 (ニュージーランド支部)	シェーン	テラー
師範代 2006 (麻布直支部)	長島	博之	インストラクター 2491 (文京)	山田	健一
インストラクター 2498 (東久留米支部)	山河	薫	インストラクター 2566 (杉並支部)	大江	博厚
インストラクター 3112 (埼玉・武南支部)	福島	直紀	インストラクター 3131 (フランス支部)	ジャン・ブノワ・ケラゴピアン	
インストラクター 3573 (護心館本部)	吉廣	正孝	インストラクター 3574 (護心館本部)	猪股	雄行
インストラクター 3775 (世田谷支部)	村尾	宏	インストラクター 3983 (大阪・東淀川支部)	廣海	格
インストラクター 4134 (神奈川・川崎)	河村	圭	インストラクター 4149 (足立・江東支部)	村松	義久
師範代 4246 (兵庫県支部・伊丹)	山岡	良平	インストラクター 4252 (兵庫県支部・伊丹)	宮津	佐俊
インストラクター 4259 (千葉・市川支部)	糸井	文子	インストラクター 4327 (兵庫県支部・伊丹)	藤山	健次郎
インストラクター 4481 (護心館・国際部)	渡邊	善永	インストラクター 4526 (兵庫県支部・尼崎)	デュフマン	ライアン
インストラクター 4532 (フランス・パリ)	ウジイー	サミー			

第19回 護心館田淵道場大会要項

・総合部門

- KODACH 1. 小太刀
 CHUKEI 2. 居合剣フリー
 NI TO 3. 二刀
 ERONO 4. 得物自由
 JIU

独立部門

1. 小太刀基本打(総合部門の前に行く)
 2. 小太刀居合 KODACH IA
 3. 戸山流居合 TOYAMA RYU
 4. 両手長剣 CHUKEI HU RYU
 5. 槍 YARI
 6. 居合剣 IA KEN (DUBE)
 7. 楯小太刀 TATE KODACH
 8. 小太刀形(二人組) KODACH KAHA
 9. 短刀 DANBO

(M FAN) 1
 AGE

- ・幼年 小太刀 剣
 ・小学1.2年 小太刀 剣
 ・小学3.4年 小太刀 剣
 ・小学5.6年 小太刀 剣
 ・幼年、小学1.2年 小太刀基本打
 ・小学3.4.5.6年 小太刀基本打
 ・女子 小太刀 剣

FEMLES

* 独立部門は時間の都合で行わないものもある。又、二種目同時進行で選択となる場合もある。

- ・試合は決勝も含め、すべて一本勝負。
- ・審判は、主審(公認審判)1名・副審(有段者)3名の計4名で当り、旗3本以上で判定。
 但し、棄権旗が出た時同旗2本で勝ちとする。
- ・選手の異議申立てはできない。審判は合議できる。但し、判定宣告後の合議要請はできない。
- ・選手が「頂きました」と宣告した時は、相手の勝ちとすること。
- ・かばい手を充分に打てば1本とする。突きに対するものや相手の手元に入ったかばい手は有効。
- ・理由の如何によらず、柄で打突した者は反則負けとする。
- ・薙刀は足、小手斬りまで認める。得物を掴んでの攻撃は有効。(連盟本部指導)
- ・総合部門三位まで決定し、部門優勝者4名で獲物自由(選択)のグラチャン戦。
- ・審判員は一定の者だけでとらず、順次入れ替える。私情にとらわれず公正な判定を心がけること。
 主審は3回で交代する。
- ・相打ちとは1回で両者敗退とする。(強打突のみ)
- ・その他は総て公式試合審判規定に準ずる。

本大会は実践に鑑みた試合を行うので、防具の着用・得物の再点検や接近戦に気をつけるなど、万全の注意を払って試合に臨む事。

尚、試合中の怪我事故は、当事者両人の責任とする。

護心館審判判定基準

- 打ちは総て手首のきいた充分なものだけを一本とする。
- 先手で出端のコテを完全に押さえているもの。(一本)
- 先手が確実でおつりの薄いもの。(一本)
- 先にしっかり打突したが、直後に強いおつりをもらったもの。(早い方を取らず、勝ち手不十分で再試合)
- 先手が不十分でおつりの強いもの。(後手の勝ち)
- 双方弱い相打ち、又、もつれてよくわからないもの。(不十分・続行)
- 双方まったく同時での強打突。(相打ち)
- 以上に打突部位の優劣も加味し、より実戦的に判定すること。
- ◎ 審判は、半端なものを取らず、明確なものだけに旗を上げること。
常に見易い位置に移動し(体を沈めても、審判同士接近して観ても良い)
棄権旗を出さぬよう留意すること。